

霊山町農業協同組合（JAりょうぜん町）



代表理事組合長	菅野 庄一	役員数	21名
所在地	〒960-08 伊達郡霊山町 大字掛田字下川原41	理事	17名（うち常勤 1名）
	☎0245-86-2111	監事	4名
設立年月日	昭和40年6月1日	職員数	82名（男64名 女18名）
		臨時	12名

I 地区の概況

当地区は、東西14.4km、南北8km、総面積87km²で、県都福島市の東部に位置し、国道115号線で福島市から12kmの距離にある。

阿武隈高地西北端の海拔804mの霊山を最高峰に、大小の山々が起伏する丘陵地である。

水系は、広瀬川、小国川、石田川、祓川の流域に沿って平地を形づくり集落と耕地が散在する。

気象は、年間平均気温13℃、最高気温は8月の32.5℃、最低気温は2月の-3.6℃。冬から

春に乾燥し表日本の内陸型気候の特色を持ち、降雪日数は少なく、積雪は30cm程度であり降雨量は年間1000mmと少ない。

緑豊かな自然環境に恵まれた霊山子供の村の施設の中に夢のミュージアム、ふれあい科学館が建設され、県内外から多くの観光客、子供達が訪れる。

世帯数2746戸、人口1万1073人、男5460人、女5613人、正組合員戸数1540戸の純農村である。

Ⅱ 50年のあゆみ

1 地区農業の変遷

農協発足当時は、食糧難から養蚕を主体に水稲、麦類を作付して稲作の増収に励んだ。

昭和30年代に入り食糧不足時代が終わり、穀類中心の生産から養蚕プラス補助的収入源として多種、多様の作物が栽培され、農業経営の組立が複雑で営農が確立出来得なかったが、36年椎茸栽培がはじまり、ハウス栽培によるにらが導入された。

40年代に粗生産1億以上の品目は、米、桃、干柿で、農協の取扱は米6500万円、桃5000万円

干柿3000万円である。

46年減反政策が実施されたが、水稲作付面積は40年551ha、50年448ha、55年376haの減少と自主減反されたが、収穫量は45年2200t、50年2210t、53年2200tと技術向上等で収穫量は同じであった。

減反による転作品目として、きゅうり、苺が選定され、46年苺大型ハウス18棟が建設されて施設園芸の本格導入となる。

50年農協扱い椎茸3億1000万円、きゅうり2億4000万円、桃1億4000万円、苺1億2000万円と椎茸きゅうり、苺の産地として形成して来た。

図表1 地区農業の変遷（農業センサスより）

項目		年次					
		25	35	40	50	60	2
総	農家戸数 (戸)	1,961	1,955	1,898	1,736	1,483	1,395
	うち 専業 (戸)	1,187	836	590	343	239	214
	I種兼業 (戸)	517	819	833	624	377	266
	II種兼業 (戸)	257	300	475	769	867	915
経営	耕地面積 (ha)	1,773	1,830	1,800	1,680	1,510	1,380
	うち 田 (ha)	587	580	580	547	514	481
	畑 (ha)	632	485	435	279	269	291
	樹園地 (ha)	487	765	785	854	699	582
収	稲 (ha)	570	565	551	448	413	284
	麦類 (ha)	450	430	181			
	野菜類 (ha)	620	613	516	376	396	301
	果実類 (ha)	120	385	406	446	348	247
	飼料用作物 (ha)		46	245	169	126	113
	たばこ (ha)	30	25	23	4	3	
飼	乳用牛 (頭)	165	292	475	300	440	445
	肉用牛 (頭)	754	567	640	305	630	229
	豚 (頭)	333	707	667	2,294	2,580	1,376
	にわとり (千羽)	8	10	22	2	227	162
	ブロイラー (千羽)				638	729	544

(注) ブロイラー 50年以降は出荷羽数

54年農協は営農類型を示し、複合経営で専業農家所得400万円を策定、主品目のきゅうり、苺、桃、椎茸の振興と農業所得向上に努めた。

水稻基盤整備も進んだが、専業農家の減少、自主減反による米出荷数量の減少が続くが、主要品目であるきゅうり、苺等天候に左右されないハウス、雨よけ栽培で主産地を形成した。

2 経営の推移

昭和40年、50年代は、経済成長に伴い農業から他産業への転向が進み、正組合員は40年より平成5年対比では291戸減少した。反面、第一

種第二種兼業化が進み、准組合員は、434戸増加した。

農産物販売高は、営農指導体制の強化を図り、組合員との対話と努力により、きゅうり、苺、椎茸、干柿等の産地が形成され、40年対比50年は495%、60年は831%、平成5年は1012%と順調に伸長した。

貯金残高は、50年は778%、60年は2559%、5年は4081%と念願の100億円の突破が出来た。

購買取扱高は、50年は394%、60年は596%、5年は827%と生産資材はもとより、生活関連事業の取組に力を入れ生活資材供給が顕著な伸びを示した。

図表2 主な勘定と事業の推移

(単位：千円、共済：百万円)

項目		年度						
		24	30	40 (合併年度)	40	50	60	5
正組合員戸数(戸)		2,153	2,149	1,832	1,833	1,725	1,585	1,541
准組合員戸数(戸)		33	94	169	170	388	516	603
資 産	余 裕 金	6,954	13,669	85,600	93,209	793,040	4,008,183	9,240,865
	貸 出 金	2,920	24,249	137,558	153,018	1,222,476	2,641,249	2,580,669
	その他流動資産	3,667	24,951	42,365	83,159	319,503	585,607	640,640
	固 定 資 産	3,452	9,544	22,725	32,698	180,783	212,857	432,658
	外 部 出 資	166	4,246	14,864	6,477	24,511	87,130	137,125
負 債 及 び 資 本	貯 金	16,824	42,188	195,915	262,761	2,045,321	5,673,298	10,725,834
	借 入 金	300	19,780	68,668	39,633	24,969	466,345	335,435
	その他負債		6,768	7,700	33,951	377,982	896,834	1,030,219
	出 資 金	1,502	8,566	30,829	31,490	69,517	280,131	509,383
	積 立 金	59	119		2	13,776	145,120	396,320
	剰 余 金	44	-762		724	8,748	73,298	34,766
主 な 事 業 実 績	販 売 取 扱 高	32,453	106,321	22,320	245,291	1,325,874	2,225,334	2,708,319
	うち 米 穀		23,467		64,997	170,917	245,046	72,809
	青果物		25,777	10,320	152,872	1,082,021	1,848,500	2,387,242
	畜産物			12,000	27,422	72,936	131,788	248,268
	購 買 取 扱 高	20,113	45,518	45,322	138,373	725,454	1,096,355	1,520,539
	うち 生産資材		33,126	40,672	119,253	641,170	877,161	1,163,509
	生活資材		12,392	4,650	19,120	84,284	209,194	357,030
長期共済保有高			433	654	10,028	70,116	105,454	

(注) 合併時は合併新農協の始期 他は年度末 合併以前の年度は合併参加農協の合計

長期共済事業は、組合員家族の保障拡充と生活設計を基調に信頼される共済事業を、J A 事業の柱として展開して1054億円の保障の積上げをした。

出資金は、固定資産取得計画に添って5年度末5億900万円と増加、40年比1617%となった。積立金は、5年度末3億9600万円と組合員の理解と協力で毎年度各種積立金、引当金を積立て、また、配当金は出資金として資本造成し安定経営と自己資金増強に努め、合併時よりの基本方針であるJ Aの健全安定経営を実践してきた。

3 農業協同組合の設立と合併の経過

(1) 設立

J A りょうぜん町の前身は、掛田町農業協同組合、霊山村農業協同組合、石戸村農業協同組合、小国村農業協同組合である。昭和23年にそれぞれの農業会の資産を受継いで誕生した。

(2) 苦難の道

産業組合、農業会共基本理念として農民が協同の力で共存共栄を図ることをを目的に発足したが、農業会は連合軍指令部の命令により解散し、基本理念を受け継ぎ、戦後農村民主化、農民の解放と期待され4農協が発足した。

当年はアイオン台風の大被害を受け前途きびしい船出であった。

昭和24年ドッチの政策による、デフレ、農村恐慌等景気が停滞する中、4農協共農協指導者が日本の新農村の基盤作りへの使命感を持って率先農村のリーダーとして、組合員との多くの対話と血の通った経営で、組合員の協力と信頼

を得て経営の原点である出資金の増額に力を入れた。

霊山村農協では、23年の出資金14万6000円が27年200万円、30年280万円と協力を得て財務の確立に努力した。

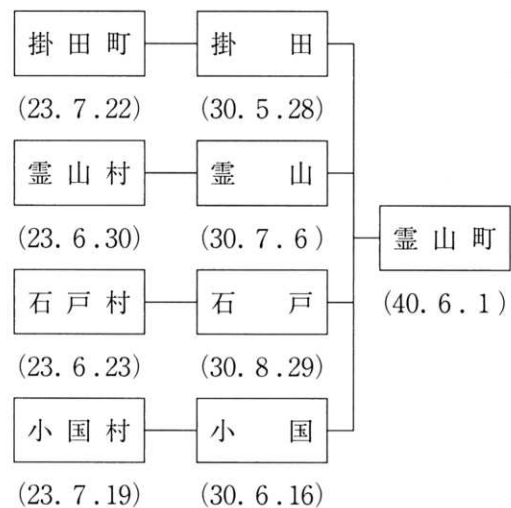
28年は全国的に大冷害凶作に見舞れ、春は霜害で桑・果樹の被害、9月は水害となり、また冷害で、高冷地では収穫皆無、平地で10 a 180 kの大被害となった。

(3) 合併

30年1町3村による町村合併で霊山町が発足して行政が広域となる。

他産業が経済成長し、農業は全般的に他産業との所得格差が拡大した。

図表3 合併等の経緯



図表4 合併参加農協の概要

組合名	組合長名	組合員数	役員数	職員数
掛田	佐藤 清寿	441	12	15
霊山	丹治伝之助	730	13	19
石戸	菅野 直次	567	15	13
小国	大河原直衛	359	10	11

32年の農協の事業方針では、大企業におくれぬ様経営を合理化して、農協を核とした組合員の団結を方針に上げている。

36年農協合併助成法が公布され、37年行政指導による農協組織整備協議会が設立されたが、合併の機運は今一であった。

行政、農協の指導者による組合員への合併の働きかけを繰り返した。

39年一般経済の高度成長、農産物市場拡大、町村合併による社会、経済圏の変化、農協の経営と施設の合理化、近代化、農業生産力の増進をはかろうと合併の促進が進み、40年6月1日霊山町農業協同組合が誕生した。

4 生産基盤の整備と生産の拡大

合併以来一貫して、農業の生産基盤の整備と農産物の生産の拡大を、農協の最優先事業とし展開してきた。

合併時2名の営農指導員を翌年4名にして全支所に配置し、山林利用をしいたけ栽培拡大に向け同年しいたけ部を設立し全町に補助事業導入による発生フレームを設置、生産基盤整備を進め生産拡大を図る。

農業の複合経営確立を強く奨めきゅうり栽培に力を入れ、栽培技術改革では、苺電照栽培、きゅうり接木栽培を取り入れ生産の安定に努めた。

米過剰、生産調整による水田転換事業の基盤整備が46年実施され、野菜施設園芸への転作を奨めた。基盤整備事業による施設園芸では、苺

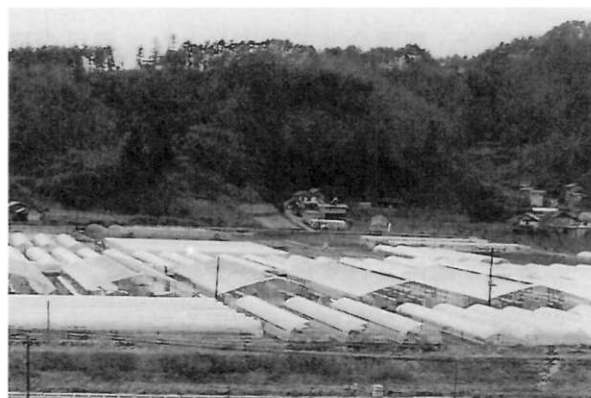
栽培用の近代的な大型ハウス18棟が建設され、省力化と苺栽培の定着化が図られ現在までの苺栽培の基礎となった。

46年からは作物別専門指導員を配置し、専門的濃密な指導を展開、産地銘柄確立のために規格・品質統一を生産組合員の努力と協力によって進めた。

合併以来の農業振興計画実践に基づく主要作物増反運動、生産組織再編、集出荷施設の整備、精算事務合理化等により、57年は販売額20億円を越え、合併時の6.5倍となった。

連続する異常気象による豊凶の対応に61年、天候に左右されない農業づくりとしてきゅうりの雨よけ栽培用パイプハウスを積極的に導入した。

農産物輸入自由化国際化の中、畜産振興基金を創設、また野菜種子代、果樹苗木代の一部補助等生産基盤拡大と生産量の確保に努めている。



山戸田地区のいちごハウス団地 (56. 4)

Ⅲ 年 表

年月日	主 な 事 績	年月日	主 な 事 績
23年		10.30	農業倉庫落成
6.23	石戸村農業協同組合発足	11. 1	婦人部花嫁衣装貸出事業開始
6.30	靈山村農業協同組合発足	44年	
7.19	小国村農業協同組合発足	3.20	農業機械補導員会設立
7.22	掛田町農業協同組合発足	8. 1	機関誌「農協だより」創刊
30年		8. 4	夏秋きゅうり栽培部設立
4. 1	掛田町、靈山村、石戸村、小国村が町村合併して靈山町となる	9. 1	掛田地区夏秋きゅうり共選所落成
5.28	掛田農業協同組合と名称変更	12. 1	果樹短期成園化事業開始
6.16	小国農業協同組合と名称変更	12. 1	施設園芸共選一本化開始
7. 6	靈山農業協同組合と名称変更	45年	
8.29	石戸農業協同組合と名称変更	1. 1	有線放送自動化完成開通
34年		1. 9	しいたけ乾燥所完成
3.31	更生特別措置の指定を受ける（石戸）	2.15	有線放送公社線接続通話開始
35年		2.28	靈山きゅうり集荷所落成
3. 1	靈山有線放送開局（靈山）	2.28	靈山果実共選所落成
36年		3. 1	生活指導員配置
6.27	共済優績 全共連表彰（靈山）	3. 1	伊達東部SS解散 SC設置
37年		5. 7	開葯所完成
3. 1	靈山町農事放送開局（掛田・石戸・小国）	6.10	中央給油所落成
5.30	系統利用優良 経済連表彰（靈山）	7.15	中央共選所落成
39年		12.21	下小国出張所事務所落成
5.30	系統利用優良 経済連表彰（掛田）	46年	
40年		2.27	靈山支所院主出張所廃止
2. 1	合併促進協議会	3. 1	営農指導員を各作物別専門指導とする
4.27	臨時総会（合併）	5.24	系統利用優良 経済連表彰
6. 1	靈山町農業協同組合発足 合併開所式	12.27	SC陸運局認証自動車整備工場となる
6. 1	果樹部設立	12.30	靈山支所スタンド改修工事完成
10.16	靈山支所事務所落成	47年	
41年		3. 1	LPGメーターセールス開始
3.22	営農指導員全支所配置	5. 1	下小国出張所を小国支所とし、元岩代小国郵便局を上小国出張所とする
11. 1	しいたけ部設立	5. 1	畜産部設立
11.27	石戸支所店舗改装	10. 1	「婦人部だより」創刊
11.28	石戸給油所開設	48年	
42年		5. 8	小国支所の上小国出張所を支所に統合
2. 3	本所事務所新築工事起工式	5.28	系統利用優良 経済連表彰
5.30	系統利用優良 経済連表彰	7. 1	ESS（電化製品修理サービス部門）設置
7.20	本所事務所落成	49年	
10.16	施設園芸研究会設立	5. 1	ぶどう部設立
10.27	本所購買倉庫落成	6.26	農協の日設定 組合員訪問開始
43年		7. 1	果実共選一本化開始
4.18	SC工場落成	7. 1	夏秋きゅうり共選一本化開始
4.19	営農推進員協議会設立	9.30	内国為替業務取扱開始
4.23	婦人部設立		

年月日	主 な 事 績	年月日	主 な 事 績
50年		5.18	共済優績 全共連表彰
2. 1	定期貯金・定期積金中央会電算加入	10. 1	農協宅配便開始
4.25	合併10周年記念式典挙行	10.26	堆肥センター利用組合設立総会
5. 1	灯油タンクローリー車運行開始	12.29	夏秋きゅうり出荷15周年記念大会
6.10	S C工場改装	12.10	メロン研究会設立
51年		58年	
2. 1	有線放送夜間公社線接続廃止	4. 5	堆肥センター落成
9.17	なめこ部会設立	4.16	第18回通常総会（経営刷新強化3カ年計画・地域農業振興計画）
10. 1	営農取引電算システム開始	7.30	販売精算用コンピューター導入
52年		59年	
2. 1	有線放送公社線接続廃止	2. 3	キャッシュカード、協同カードサービス開始
4.25	第12回通常総会（増資5カ年計画）	5.18	系統利用優良 経済連表彰
4.26	ぶどう部青年部設置	8.30	小国支所会議室落成
6. 3	掛田支所事務所落成	9.10	県内及び全国農協間貯金ネットサービス開始
6.25	全農・全共連に加入	10.15	A T M稼働開始
7.13	夏秋きゅうり栽培部青年部設立	60年	
7.30	石戸支所事務所落成	2. 9	葉ワサビ研究会設立
11. 1	施設機械警備開始	3.30	果実共選所落成
12. 1	有線放送テレホンサービス開始	4.19	合併20周年記念式典挙行
53年		10. 7	農協シンボルマーク審査
4. 1	営農推進員制度廃止	61年	
11. 4	第1回農協祭開催	5. 2	Q C活動導入
54年		7.20	航空防除実施
1.31	集出荷貯蔵施設落成	8. 5	台風10号豪雨による農作物被害発生
2.27	予冷库落成	10.17	S C工場落成
9. 1	米自主検査員制度発足	12.25	石戸支所購買倉庫落成
55年		62年	
4.18	第15回通常総会（協同活動強化3カ年計画・地域農業振興計画）	2. 3	大雪によるハウスに被害発生
6.10	葬祭事業開始	2.10	2.3雪害対策会議
7. 7	施設園芸研究会解散	2.20	集出荷施設落成
8.22	いちご生産部設立	3. 9	購買事業オンライン開始
8.25	ニラ生産部設立	8.27	指定自動車整備事業（民間車検場）認可
56年		9. 7	民間車検場業務開始
1.29	有線放送業務期間延長認可	12.4	霊山月館地区合併懇談会開催
3. 1	りんご研究会設立	63年	
3. 1	スモモ研究会設立	3.18	婦人部合併20周年大会開催
3. 1	柿生産加工部設立	5. 1	配送センター業務開始
3.19	果樹部組織編成のため解散	5.20	系統利用優良 経済連表彰
3.19	もも生産部会設立	元年	
3.31	年金友の会設立	2.12	竹下総理来町
6.13	農協りょうぜん号外発行「異常気象対策」	4.14	第24回通常総会（農協総合力強化後期3カ年計画）
9.14	信用業務オンライン稼働開始		
57年			
4.16	第17回通常総会（農産物輸入自由化枠拡大に関する特別決議）		

年月日	主 な 事 績	年月日	主 な 事 績
2年		4年	
1.20	夏秋きゅうり栽培部ハワイ旅行実施	2.10	伊達南部食材センターオープン
4.21	第1回電化ショー開催	2.26	霊山支所事務所落成
5.19	A T M稼働時間延長、午後7時	2.28	予冷施設落成
7.16	業務間C Dオン提携実施	3.30	J A ・ C I 導入推進大会
10. 1	中央給油所P O S 導入稼働	4.25	第27回通常総会 (21戦略第1期3か年計画)
11. 5	L P Gマイコンメーター取付開始	5.27	系統利用優良 J A 福島経済連表彰
11.24	堆肥センター増設工事落成	6.25	伊達地方J A 合併研究会設立総会
3年		9.10	霊山・月館合併研究会
2.25	農機具修理工場増築工事落成	12.14	婦人部 家庭介護大学開催
5.26	第1回農協組合長称スポーツ少年団交流大会開催	12.22	販売物精算システム切換え
6. 7	コイン精米機オープン	5年	
7. 1	農協旅行センターオープン	冷害被害発生	
8. 5	夏休みチッピーコファンタジー実施	10.21	有線放送施設更新工事落成通話式
9. 1	配送センター資料P O S 業務開始	12. 1	青果物出荷予告システム稼働
10.21	食材宅配事業開始	6年	
12.28	家庭介護と健康づくり大学開講	2. 7	伊達地方J A 合併経過部落座談会開催



自動車整備工場 (62年)

IV 資 料

(平成5年度末現在)

1 組合員 ()は戸数

正組合員		准組合員		合 計	
個人	法人	個人	団体	個人	法・団
1,559		793	16	2,352	16
(1,541)		(603)		(2,144)	

2 役員及び参事

代表理事組合長	菅野 庄一	理事 大橋 稔	大橋 稔
理事 菅野 哲夫	理事 大橋 哲夫	理事 鈴木 邦和	理事 大波 栄之助
理事 斎藤 彌一	理事 斎藤 彌一	理事 岡崎 友明	理事 岡崎 友明
理事 渡辺 武三	理事 渡辺 武三	理事 斎藤 邦夫	理事 斎藤 邦夫
理事 安藤 正三	理事 安藤 正三		
理事 菅野 成雄	理事 菅野 成雄	代表監事	
理事 菅野 利一	理事 菅野 利一	菅野 幸男	菅野 幸男
理事 菅野 利一	理事 菅野 利一	監事 佐藤 昭夫	監事 佐藤 昭夫
理事 菊地 英一	理事 菊地 英一	監事 八島 正利	監事 八島 正利
理事 柳沼 栄孝	理事 柳沼 栄孝	監事 八島 芳広	監事 八島 芳広
理事 佐藤 孝	理事 佐藤 孝		
理事 引地 信太郎	理事 引地 信太郎	参事 斎藤 長夫	参事 斎藤 長夫

3 職 員

男	女	計	うち営農 指導員	うち生活 指導員
64	18	82	9	1

4 協力組織

名 称	代 表 者	会員数
婦人部	引地 千工	869
年金友の会	大橋 喜蔵	1,509
農機具補導員会	菅野 直光	19

5 生産部会

名 称	代 表 者	会員数
しいたけ栽培部会	大波 栄之助	169
夏秋きゅうり栽培部	斎藤 力	242
畜産部	菅野 正吉	34

菌床栽培部	大橋 清美	20
ぶどう部	高橋 弥六	12
いちご生産部	丹治 武久	93
ニラ生産部	菅野 鉄雄	93
もも生産部	大橋 芳啓	100
りんご研究会	菅野 福典	18
スモモ研究会	菅野 幸男	83
柿生産加工部	菅野 芳英	132
メロン研究会	小手森 芳男	35
わさび生産部	引地 信太郎	208
酪農部	菅野 忠信	8
花き栽培研究会	佐藤 正徳	14

6 主な施設

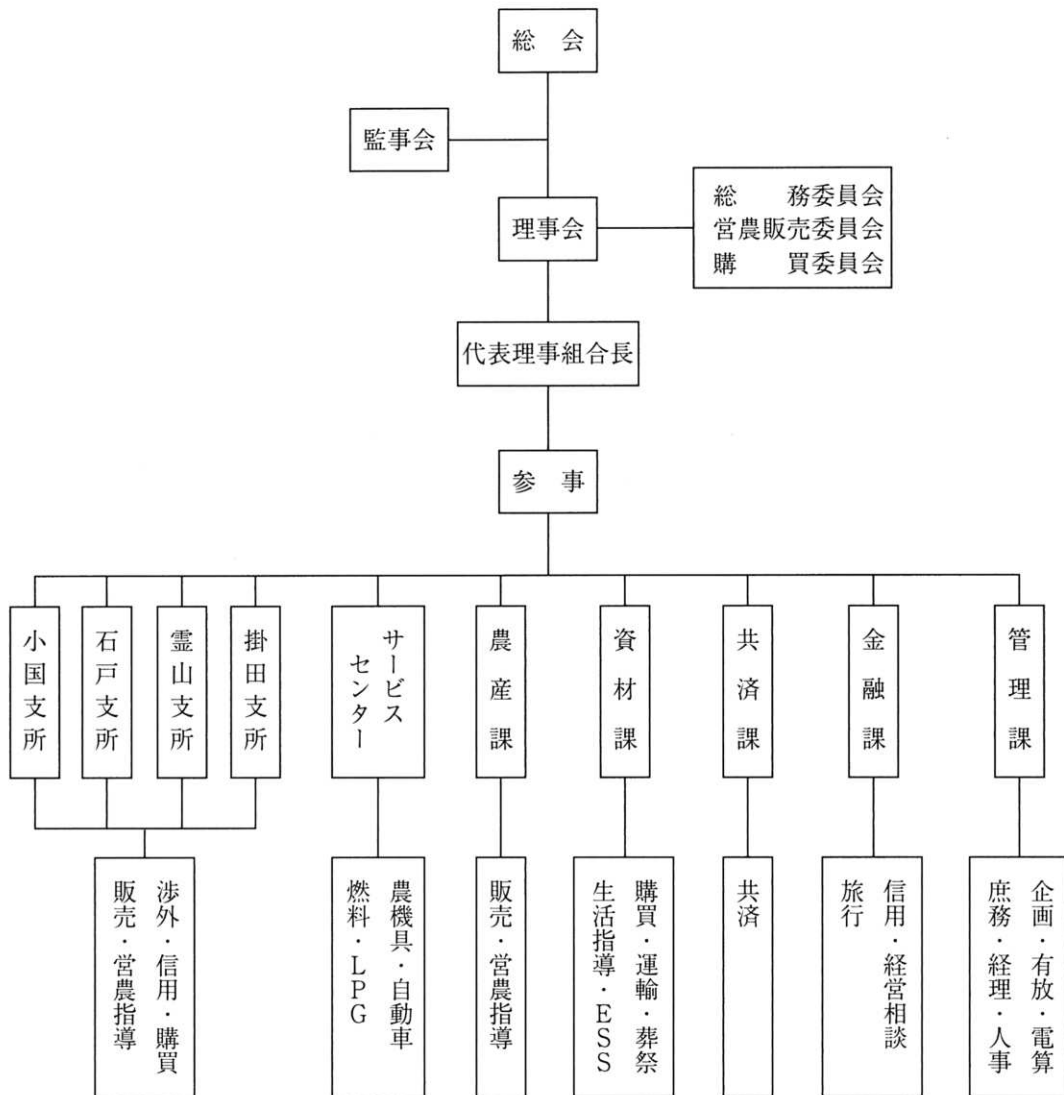
名 称	所 在 地
本 所	大字掛田字下川原41
掛田支所	〃 字西裏54-14
霊山 〃	大字大石字西館34-3
石戸 〃	大字石田字天沢7-1
小国 〃	大字下小国字清水16-3
サービスセンター	〃 字高田26-1
農業倉庫	〃 字下川原41
果実共選所	〃 字高田21-1
集出荷施設	〃 〃 〃
予冷施設	〃 〃 〃
資材倉庫	〃 字下川原41
配送センター	大字大石字鳥居8-1
堆肥 〃	大字中川字荒堤1-1
中央スタンド	大字掛田字下屋敷2
有線放送施設	〃 字下川原41

7 歴代組合長・参事

組 合 長			
40~45	丹治伝之助	56~5	大橋 正雄
45~47	菅野 直次	5~	菅野 庄一
47~56	斎藤 正芳		

参 事			
40~45	遠藤 源吾	60~63	中野 正次
45~46	菅野 忠男	63~	斎藤 長夫
46~60	中野 喜一		

8 経営管理機構



9 合併前の歴代組合長

掛田農協

23~24	佐々木 諫	24~40	佐藤 清寿
-------	-------	-------	-------

石戸農協

23~33	大橋太三郎	33~40	菅野 直次
-------	-------	-------	-------

霊山農協

23~29	菅野治兵衛	33~40	丹治博之助
29~33	大橋権之助		

小国農協

23~40	大河原直衛
-------	-------